

1. 教育の責任

この科目は「領域及び保育内容の指導法に関する科目」として位置づけられており、本学科の「保育者としての専門的知識や実践的スキルを修得し、様々な側面から子どもを理解し、国際・地域社会における今日的なニーズに対応できる人」というディプロマ・ポリシーと関連している。特に、学習成果の評価基準の⑦「保育内容についての専門知識を持っている」⑨「子どもを理解するための知識と実践的な能力を身に付けている」の部分と関連している。

2. 教育の実施における理念

子どもの成長には家庭はもちろんのこと、保育園や幼稚園、こども園での関わりも大きい。特に幼児期に携わる保育者は「保育のプロ」として子どもと関わらなければならない。常に子どもと寄り添い様々な面から子どもを見るためには、専門的な知識の修得はもちろんそれをどのように活かしていくのか実践的なスキルも必要である。そのためには、保育所保育指針や幼稚園教育要領等に表示されている内容を理解し、実際の子どもの姿とどのように結びつけているのか様々な専門的な視点があることを理解しておく必要がある。本授業では学生自らが自主的に学び、個人の学びだけでなく学生同士が対話を行い新たな視点を見つけることで深く学んでいくことを重視していく。

また、子どもの姿は1つの領域だけではなく様々な領域が含まれていることを捉えることが出来るよう本授業だけでなく保育内容「人間関係」「環境」等、他の領域科目と連携しながら求められる保育者養成に向けて授業を行っていく必要がある。

3. 教育の方法

展開時期は1年次の後期となる。1年の春休みから保育所実習が始まるため、実習前に専門的知識を身につけておくことで、授業で学んだことを実際に見て体験することでさらに深く理解することが出来ると考えられる。

授業の前半は保育所保育指針や幼稚園教育要領を読み理解することを重視し、後半にかけて事例や保育現場の写真・動画からどのような育ちがあるのかを個人またはグループで指針を使いながら読み取っていく活動を取り入れた。また、それらの言葉の発達に関連した活動も取り入れることで実際に体験しながら理解できるようにした。最終課題として、実習に向けてどのような言葉を使えば子どもたちに伝わりやすいのか学生同士実践する場を設けた。

振り返りとして毎回の授業終わりに感想用紙を準備し提出させた。提出した感想は「全体の感想」として次の時間の始めに全員と共有し、疑問点があれば前回の授業の振り返りと共にその時に答える等をして全員の共通理解を行えるようにした。

4. 教育の成果

成績評価は、授業の途中で行った2回のレポート課題と、実践を用いた最終課題によって評価をおこなった。

授業の途中で行ったレポート課題に関して、その内容と分量を基準にして評価した。実践を用いた最終課題に関しては、発表に用いた制作物とそれを用いた表現する方法を評価した。2名は制作物が完成していなかったが、その他の生徒は作った制作物を用いて工夫しながら相手に伝えることを意識し行うことが出来ていた。学生からの感想では、「制作し実践できたのは自分の中でも強い武器になると思うので、来年度もしてほしい」という意見があった。

授業アンケートでは80%以上が「分かりやすい」「まあまあわかりやすい」と回答していること、毎回の感想や授業アンケートから、「子どもたちの言葉の発達を詳しく知ることができ、それに関連付けた活動があり分かりやすかった」「友達とする活動や、1人で考えたりする時間もより程よい感じで良かった」「子どもの言葉について、実際に動画を見たりエピソードなどから言いたいことを想像したり気持ちを考えてみる事ができた」という意見から、学んだことをインプットするだけでなく他者と対話を行うことで違う意見を知ったり自分の意見を伝えたりといったアウトプットすることにより理解が深まったという意見が多かった。一方で「指導案を取り入れた活動をもう少し取り入れてほしい」という意見があった。

5. 目標

授業の方法に対する振り返りでは、今回の教育方法については来年度も続けて行くと共に、学生に合わせて授業方法を変更し改善して行く必要があると考えられる。今回の意見が出た「指導案の作成」についてだが、他の授業で取り組んでいるのだが来年度はこの授業でももう少し深く取り入れていきたい。

感想やレポートから書ける学生と書けない学生の差が大きく、自分の意見を文字にすることが苦手な学生が多いように感じられた。その為、授業内でも高められるような取り組みが必要だと考えられる。